



2015年度年間活動報告のポスター発表。  
第15回千代田まちづくりサポート（通称・まちサポ）の助成を受け、  
神田多町2丁目でさまざまな活動を展開してきた

# 神

田暮らし探検隊——耳に  
するだけで胸躍る探検隊が、  
東京神田の歴史や今を調査  
しているという。探検隊のメンバーは、  
東京大学大学院都市デザイン研究室の  
有志学生たち。彼らを指導しながらま  
ちを調査する東京大学大学院都市デザ  
イン研究室助教の中島伸さんに、神田  
暮らし探検隊について聞いた。

「都市デザイン研究室では、現場百遍  
の言葉どおり、現地調査を基本に情報  
や研究を蓄積し、まちづくりや都市デ  
ザインの理論と実践を研究していま  
す。全国で実施するプロジェクトの一  
つとして、二〇一四年に神田プロジェ  
クトがスタートしました。僕も含めた

このプロジェクトのメンバーが、神田  
暮らし探検隊なのです」

神田プロジェクトの発端は、学部生  
だった羽野明帆さんが卒業論文のテー  
マに神田の老舗調査を選んだことであ  
るといふ。羽野さんは旧千代田区立淡  
路小の跡地に建つ「ワテラス」内のス  
チューデントハウスに住み、地元的地  
域活動にも参加していた。大学院に進  
んだ彼女は、仲間と一緒に調査を続け  
ることを希望したのだ。

「僕自身、自分が生まれ育った東京の  
ことを、さらにきちんと研究したいと  
以前から思っていました。今回、居住  
しながら働くという都市居住のプロト  
タイプが老舗であることに気づき、そ  
れがどう今につながり、どう変化して  
いるのかを知りたいと調査に参加して  
います」

まずは老舗を営む方々へのインタビ  
ューから調査は始まった。二〇一四年  
十一月には、それまでの調査研究の成  
果を発表する目的で「神田老舗まちか  
どツアー」を開催した。神田暮らし探  
検隊のメンバーがガイドを務め、地域  
や老舗の方々と話を聞きながら、四  
十名の参加者とまち歩きをした。

調査をするうちに学生たちの関心  
は、増えてきたマンションの住民にも  
広がっていった。その住民や暮らしぶ  
りも含めて、今の神田の住まい方があ  
るのではないかと考えた。

このプロジェクトのメンバーが、神田  
暮らし探検隊なのです」

田の魅力と併せて調査することにし  
ました。もう一つ、地元の人と話す中で、  
旧住民、新住民という呼び方があり、  
この二つをつなぐこともまちづくりの  
課題であることに気がつきました。で  
きるだけ一緒に調べませんか、ガイド  
ツアーに参加しませんかと、住民の方  
々を巻き込むことで二つが繋がった  
らしいと考えました」

**世界一狭いまち歩きツアーで、  
新住民と旧住民をつなぐ。**

二〇一五年度、二年目の神田プロジ  
ェクトは、「第十五回千代田区まちづ  
くりサポート」の助成金を受け、「冊  
子制作を通じた地域資源の発掘と二十  
年後の担い手づくり」をテーマに活動  
した。対象は、神田駅北口から徒歩一  
分の多町。江戸時代から多町という名  
で知られ、神田やっちゃ場として賑わ  
った歴史を持つ。面積二・九ヘクタ  
ー、人口八百七十三人の小さなエリア  
だが、これを徹底的に掘り下げた。

「超多町探検」と称して、東京ド  
ムより二まわりも小さい多町を、二時  
間かけてツアーしました。市場で栄え  
た江戸の多町、職人で栄えた大正の多  
町、パブルと都市計画で空間の変化を  
体験した多町という三つの歴史が、今  
の暮らしにどう根づいているか説明し  
ながら、昔の多町を知る地元の方の  
話を交えつつ歩きました。この世界一狭  
いまち歩きに、二日間で述べ三十五名

の参加者がありました。これをきつ  
かに、新住民の中から町会に入る方も  
現れました」

一年をかけた多町調査の集大成とし  
て、今年四月には地域情報誌「多町  
Zine」を発刊。歴史を縦軸に、空  
間を横軸に、多町の多面的な面白さが  
伝わる内容だ。

二〇一六年度も千代田まちづくりサ  
ポートの助成金を受けることが決まっ  
た。活動のテーマは、「子供のまち体験  
を通じた地域資源の発掘・共有と二十  
年後の担い手づくり」だ。多町を含む  
千代田小学校区域を対象を広げ、子育  
てがまちなかでどう行われているのか  
を調査する。

「小学生を対象にまち歩きツアーを行  
います。地元の小学生にまちとの関わり  
を教えるというだけでなく、僕らが知った  
神田の面白い部分を彼らに伝え、将来  
のまちの担い手づくりに少しでも貢献  
できたらと。まちを調査研究すること  
は、僕らがまちの良さを知り、まちの  
暮らし方の文化を探り、次にまちづく  
りをするときの指針となるものを見つ  
け出すこと。今では僕ら探検隊が、ま  
ちの魅力に相当に捕まっています。今  
年三月に卒業した探検隊のうち二名は  
神田にある会社に就職をし、二名は神  
田に引っ越してきたんですよ」

そう話す中島さん自身、このまちと  
の縁が深まるのが、嬉しくて仕方な  
い様子だった。●



2015年10月30日、31日に行われた、神田暮らし探検隊ツアー「超多町探検」。研究室学生が、多町のまちの成り立ちを参加者の皆さんに解説している

# 神田暮らし探検隊

学生が住民と  
共に学び、歩く「多町」。

東京大学大学院  
工学系研究科都市工学専攻助教  
**中島伸**  
talk by Shin Nakajima



なかじま しん 1980年東京生まれ。2003年筑波大学（都市計画専攻）卒業、  
06年同学大学院（環境科学専攻）修了、09年中野区政策研究機構研究員（非常勤職員）。  
10年より（公財）練馬区環境まちづくり公社練馬まちづくりセンターにて専門研究員を歴任。  
13年東京大学大学院博士課程工学系研究科都市工学専攻修了、  
同学先端科学技術研究センター特任助教。  
15年より同学大学院工学系研究科都市工学専攻特別助教を経て同助教。  
上・2015年度の活動の集大成として制作した地域情報誌「多町Zine」を手にした中島助教

金丸裕子・文

text by Yuko Kanamaru

かなまる ゆうこ ライター。企画と編集を手がけた本に『銅版画家 南桂子  
メルヘンの小さな王国へ』。編集で『お茶をどうぞ対談向田邦子と16人』など。